

[018]教育経営学研究紀要目次等

<https://hdl.handle.net/2324/1560580>

出版情報：教育経営学研究紀要. 18, 2016-01-23. 九州大学大学院人間環境学府(教育学部門)教育経営学
研究室/教育法制論研究室

バージョン：

権利関係：

あとがき

ここに教育経営研究室・教育法制研究室による共同作業としての研究室紀要第18号が完成いたしましたので、謹んで皆様にお届け致します。本号は八尾坂修教授の退職記念号として発刊いたします。本紀要第6号が前任者中留武昭教授の退官記念号にあたり、次の第7号から本号までは八尾坂・元兼体制で毎年欠かすことなく紀要を発行し続けて参りました。旧・小講座という小さな組織で研究室紀要を発行し続けるには、いくつかの困難が横たわっております。執筆者の確保、査読体制による水準の維持、献身的な編集業務を担ってくれるスタッフのモチベーション、そして予算の問題です。これまでも前身の「教育行政学研究」を発刊していた神田修・小川正人体制、そして「教育経営 教育行政研究」「教育経営学研究」の中留武昭・篠原清昭体制でもそうした課題はありましたが、かつて国立大学時代の潤沢な校費と比較してその圧縮ぶりは目に余るものがあります。とりわけここ数年の目減りは研究室紀要どころか研究室運営をも困難にさせている状況です。

九大教員スタッフも私が院生だった頃は、教育法制の神田修教授、教育行政の小川正人助教授に、学校経営の高野桂一教授がおられ、経営・行政分野で3名体制の布陣でした。他方、八尾坂教授の後任人事は未定で、法制・行政は以前より私1人で担っているため、今春より3研究室分の領域をカバーしなければなりません。浅学菲才の身である私には不安で一杯です。あらためて八尾坂教授の存在感を実感しているところです。

中教審委員や福岡市教育委員長等として政策形成や評価に寄与され、また九州教育経営学会会長やアメリカ教育学会代表理事など学会の重責も担われ、その多忙な傍ら、多くの著作をものされてきました。華々しい肩書きとは裏腹な朴訥なしゃべりと個々人への強い関心から多くの若い学生たちを魅了してきました。この紀要が発刊される頃には、教えることに囲まれ退職行事が催されていることと思います。

何十年もひとところに留まっていると旅立ちを見送ることが多く、永遠など何一つないことを思い知らされます。見送った多くの人々と時間をともにしたキャンパスもあと2年余りで移転となります。しかしながら、たとえ時間や空間が異なっても、メンバーが入れ替わっていても、その脈々とつづく伝統や挑戦しつづける組織文化を継承し、時代の変化を睨みながらつねに革新し続けたいと考えています。

本研究室紀要をご高覧いただき、ぜひ忌憚のないご意見、ご批判をお寄せください。

2016年新年を迎えて

元 兼 正 浩